

令和2年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同研究班」 研究報告書

令和3年4月29日現在

研究課題名	近現代の中央ユーラシアに関する共同研究		
担当者	氏名		所属機関・職
	1	宇山智彦	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・教授
	2	長縄宣博	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・教授
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	藤澤潤	神戸大学大学院 人文学研究科・講師	ソ連史・冷戦史
	研究テーマ		
	ソ連のアフガニスタンからの撤退とコメコン		
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	吉村貴之	早稲田大学・招聘研究員	アルメニア近現代史
	研究テーマ		
	ナゴルノ・カラバフ紛争とアルメニアの政治		

## 研究成果の概要

今年度は、政治体制の変動と社会運動に重点を置いたが、折しも2020年はスラブ・ユーラシア地域でも抗議デモ、政変、戦争が相次ぎ、本研究班も現在の変動に積極的に応答することになった。長縄は、帝政末期のタタール人社会に戦争がどのような影響を与え、それが1917年以降の中央アジアの革命・内戦にどのように作用することになるのかについて論考を發表し、国際的にも高い評価を得た。藤澤は、昨年度に引き続き、1980年代後半から1991年までの時期のソ連のコメコン政策とコメコンの解散過程を、東欧諸国のみならずモンゴル、キューバ、ヴェトナムの動向を踏まえながら検討した。旧ソ連・東ドイツのアーカイヴ史料をもとにこの時期のコメコン内の議論を具体的に検討した藤澤は、コメコンは1989年以降に自然消滅したのではなく、1991年2月まで全加盟国がコメコン後継組織の創設に賛成していたこと、しかし欧州情勢やコメコン非欧州加盟国の動向などが影響して解散に行き着いたことを確認した。宇山は、同じ時期の中央アジアについて、当事者の当初の意図とは異なる劇的な展開がなぜ起きたのかという関心を藤澤と共有しながら、ソ連邦構成共和国の自立過程における民族問題の作用を論じた。特に、ペレストロイカ前半期のソ連中央による統制強化策と、後半期の民族紛争へのソ連中央の対応が、独立志向の薄い共和国にさえ遠心力を与えたこと、民族紛争への共和国指導部の対応とそれによって生じたエリート内の関係のあり

**研究成果の概要（続き）**

方が独立後の政治体制に大きな影響を与えたことを指摘した。

また吉村と宇山はそれぞれ、2020年9月末に発生したナゴルノ・カラバフ紛争の再燃と10月のクルグズスタンの政変を分析した。吉村は、1992年から1994年5月まで続いた第一次カラバフ紛争がアルメニア政治に与えた影響との比較を行った。第一次カラバフ紛争時は半大統領制であるのに対し、第二次カラバフ紛争時は議院内閣制に移行後だったので、大統領は儀礼的な存在であるはずだった。しかし、戦後処理をめぐって A.サルキスィアン大統領がパシニアン内閣の総辞職と議会の繰り上げ選挙を求めるなど、その発言力はかえって強まった。これは、本人が2018年3月に S.サルキスィアン前大統領の推薦により議会で選出された前政権の残滓であるだけでなく、パシニアン首相が2018年4月の大衆デモによって権力を奪取したことで政府内での権力闘争が長期化し、半大統領制からの移行が不完全であることを象徴している。宇山は、2005年と2010年に続き3度目となった大衆行動による政権崩壊を分析し、エリート凝集性の低さによる不安定の継続と、議会への不信により大統領への権力集中を求める流れを指摘した。両国の状況の分析により、政治的不安定性と政治制度の関係や、エリートの分裂と大衆行動の関係を比較する材料が得られた。

**主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。**

宇山智彦「ペレストロイカ期中央アジアにおける共和国の自立と民族問題の関係：「政治の場」の浮上と遠心化・多様化」『国際政治』201号、2020年、98-113頁。謝辞無

宇山智彦「人民の要求か、裏切られた革命か：クルグズスタン（キルギス）の2020年政変」『スラブ・ユーラシア研究センターニュース』161号、2020年、11-16頁。謝辞無

Норихиро Наганава. Гражданская война как цивилизаторская миссия: Роль татарских политработников Красной Армии в Туркестане // Гражданская война в России: Жизнь в эпоху социальных экспериментов и военных испытаний, 1917-1922. СПб.: Нестор-История, 2020. С. 417-435. 謝辞無

Norihiro Naganawa, "Tatars and Imperialist Wars: From the Tsar's Servitors to the Red Warriors," *Ab Imperio* 1 (2020): 164-196. 謝辞無

Jun Fujisawa, "Gorbachev, Common European Home, and the Reform of the CMEA, 1985-1991," *Friendship of Convenience. COMECON Member-Countries Facing the Cold War*, Chelyabinsk State University (Zoom), 16 November 2020. 謝辞無

藤澤潤「ソ連のコメコン改革構想とその挫折：1990—91年の域内交渉過程を中心に」『史学雑誌』130編1号、2021年、1-35頁。謝辞無

吉村貴之「ナゴルノ・カラバフ紛争とアルメニアの政治、そして戦後へ」スラブ・ユーラシア研究センターHP「研究員の仕事の前線」2020年12月（謝辞は明示していないが、発表媒体から自明）

吉村貴之「アルメニア人とアルメニア語」、鈴木董、近藤二郎、赤堀雅幸共編『中東・オリエント文化事典』丸善出版、2020年11月、28-29頁。謝辞無

**当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）**

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。